

平成25年

壱岐市議会定例会12月会議

行政報告

壱岐市

目 次

はじめに	1
（1）長崎県への要望活動について	2
（2）職員とのハートミーティングについて	2
（3）大学との連携について	3
○交流人口の拡大	
（1）観光振興について	4
（2）実業団等スポーツ合宿の誘致について	6
（3）兵庫県朝来市との交流について	7
○産業の振興	
（1）農業の振興について	7
（2）水産業の振興について	9
○教育	
（1）長崎がんばらんば国体2014について	10
○病院事業	
（1）壱岐市民病院について	11
○防災、消防・救急	
（1）防災、消防・救急について	12
（2）原子力防災について	13
議案説明	
（1）補正予算について	14
（2）その他の議案について	15
おわりに	15

行政報告

平成25年壱岐市議会定例会12月会議

〇はじめに

本日ここに、平成25年壱岐市議会定例会12月会議にあたり、前会議以降、本日までの市政の重要事項等、また今回、補正予算に計上した主な内容等についてご報告申し上げ、議員皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

さて、この秋、多くの方々が叙勲や各表彰を受賞されました。

11月3日に、平成25年秋の叙勲で、消防功勞として元市消防団長 草合 祐三 様が瑞宝単光章を、第21回危険業務従事者叙勲で、消防功勞として元市消防長 山川 明 様が瑞宝双光章を受章されました。

また、本年度の県民表彰では、消防防災功勞として壱岐市消防団副団長 西口 千治 様が、平成25年度文化庁地域文化功勞者表彰において、文化財保護分野で壱岐神楽保存会様が、平成25年度優良PTA文部科学大臣表彰を、霞翠小学校PTAが受賞されました。さらに、離島振興60周年記念国土交通大臣表彰を、玄海酒造(株)代表取締役会長 山内 賢明 様が、平成25年度行政相談委員総務大臣表彰を 真上 征治 様が受賞されました。

この度、叙勲、県民表彰、各大臣表彰等の栄に浴された皆様に対

し、今日まで築かれたご功績に、深甚なる敬意を表しますとともに、心からお慶び申し上げます。

それでは、前定例会以降、本日までの市政の重要事項等についてご報告申し上げます。

(1) 長崎県への要望活動について

11月15日、長崎県に対し、壱岐市の単独要望を行いました。長崎県からは、中村知事をはじめ、幹部職員に対応いただき、本市からは、町田議長、山本県議にもご同席いただきました。

要望項目については、「壱岐市民病院の県病院企業団への早期加入について」「漁業燃油高騰対策について」「小学校複式学級編成基準の引き下げ等について」をはじめ「嫦娥三島大橋、原島大橋架橋の早期実現」「県道渡良浦初山線の整備」「クロマグロの産卵期における漁獲制限について」「勝本港に関連する施設整備等について」など、11項目の要望を行ったところであります。

中村知事からは、重要項目についてご回答いただきましたが、さらに、他の項目についても、ご検討いただくこととなっております。

今後も、こうした壱岐市単独要望については、意見交換を含め積極的に実施してまいります。

(2) 職員とのハートミーティングについて

20代から30代の若手職員と壱岐市の将来、市政に対する思いや考えなど意見交換を行う「職員とのハートミーティング」を10

月9日から行っております。職員からは、現在の仕事における取り組みや問題点、市政全般にわたる考えや思いなど対話することができ、大変有意義に感じております。私からは、従来の「地域のリーダーであること」「素早い対応」「常に壱岐市のことを考えること」に加え、3つの目「遠くを見る目（将来のこと）」「広く見る目（市全体のこと）」「深く見る目（職務のスペシャリストになること）」を持つことを要望しております。今後も、こうした職員との対話、意見交換を行い、意思の疎通を図りながら、職員一丸となって、壱岐市の振興、発展に全力で取り組んでまいります。

（3）大学との連携について

長崎県立大学の「しま体験教育プログラム」が文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」に採択されたことから、去る10月22日、同大学を訪問し、意見交換を行ってまいりました。

本事業は、自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的とされております。県立大学では、長崎県の特徴である離島を取り上げ「しま」でのフィールドワークを必修化することにより、学生たちが「しまを知る」、実際に訪れ「しまに学ぶ」、地域の人と交流し「地域をつなぐ」そして地域課題の解決策を「地域に還す」ことを目指し、自治体と連携して実施するものとなっております。

平成26年度から事業開始され、大学1年時に、しまを知ることから始まり、2年時にフィールドワークを行う予定となっておりますので、実際には平成27年度から200人ほどの大学生が壱岐を訪れることとなります。

現在、事業の円滑な推進を図るため、県立大学との連携協定の締結に向け準備を進めているところであります。今後、県内他大学との連携も視野に、さらに積極的に取り組んでまいります。

○交流人口の拡大

(1) 観光振興について

本市における観光客数を推計するうえで参考となる九州郵船とオリエンタルエアブリッジの本年8月から10月までの乗降客数累計は、219,444人で、対前年度100.8%と昨年並となっております。8月から9月における乗降客数累計は対前年度106.2%と増加していましたが、10月において、2度の台風接近による船舶の欠航等が影響し、対前年度87.2%となり、伸び率が鈍化いたしました。

また、情報発信・誘客活動として、広島市、東京都庁、大阪市において観光物産展を行うとともに、横浜市で開催された「第1回ゆるきゃらグルメフェスティバル」において、着ぐるみ「人面石くん」の参加や福岡市でのラジオ放送局まつり等に参加しPR活動を行ってまいりました。今後も、あらゆる機会を利用し、観光PRや物産

販売を行うとともに、県内離島の自治体や観光連盟と連携し、島の魅力の発信に取り組んでまいります。

しま共通地域通貨事業「しまとく通貨」の長崎県全体の販売状況は、10月末現在で15億4,335万6千円、年間目標に対し42.9%となっております。地域別の販売額の指標と捉えている換金額は、10月末現在、壱岐市において4億1,772万4千円、年間目標額の43.5%となっております。引き続き、事業の周知と販売促進に向けた取り組みを進めてまいります。

修学旅行、教育旅行の誘致については、9月に大阪市内、神戸市内を中心とした関西地区を、10月に長崎市内及び周辺市の小学校を対象に誘致活動を行いました。修学旅行、教育旅行の誘致については、受け入れる側の魅力の向上と体制の整備が大きな要因となりますので、本市観光連盟とも連携し、誘致活動を推進してまいります。

外国人誘客いわゆるインバウンドの取り組みについて、10月17日、九州観光推進機構主催の韓国・ソウル観光情報説明会に、市内4宿泊施設とともに旅行会社を対象にトップセールス、情報発信を行うとともに、台湾旅行社のモニターツアー招へいなどを行ってまいりました。このように積極的なインバウンド対策、誘致活動を進めておりますが、受け入れる宿の整備についても、県補助の見通しがつき、今回、所要の予算を計上しておりますので、ご審議賜りますようお願いいたします。

また、去る11月4日から8日まで、日中平和友好条約締結35

周年及び長崎県日中親善協議会設立40周年を記念し、中村知事をはじめ県議会議員、県内市町関係者、友好団体等による中国への訪問を行いました。本市からは、中原副市長を参加させましたが、今回の訪問では、日中間の交流促進について意見交換を行うとともに、長崎県から帰国された留学生との交歓会も実施され、友好と信頼の絆がさらに深まったと聞いております。本市と中国は、孫文と梅谷庄吉・トク夫妻との縁でこれまで友好関係を築いており、さらに福岡市と連携した中国の情報雑誌「外灘画報」^{わいたんがほう}撮影誘致事業など交流を促進しております。今後もこの絆を大切に、さらに強固なものにしてまいりたいと考えております。

(2) 実業団等スポーツ合宿の誘致について

各スポーツ合宿の誘致については、島外スポーツ団体誘致促進助成金制度を設け学生等を中心に実施しておりますが、この度、全日本実業団対抗女子駅伝競走大会をはじめ全国的に活躍され、長崎県の陸上界を牽引していただいている十八銀行女子陸上部が、平成26年に、壱岐市での合宿を決定した旨連絡をいただきました。決定にあたっては、現地視察等を行っていただき、その結果、本市の自然、施設の状況、食をはじめ合宿を行うにあたり、最適な環境であるとのことで、大変ありがたく思っております。

今後、当陸上部とも意見交換を行いながら、合宿の出来る環境を充実させ、さらなる誘致に取り組んでまいります。

(3) 兵庫県朝来市との交流について

民間交流や学校、文化財交流などを行っている兵庫県朝来市の但馬・食文化まつりに参加し、壱岐のまぐろの紹介など、壱岐の魅力のPRを行いました。また、朝来市長様、市議会議長様にお会いし、友好都市・姉妹都市締結について協議を行ってまいりました。

来年3月1日、壱岐市合併10周年を機に、友好・交流をさらに深めるためにも、今後、友好都市・姉妹都市の意思表示の手立てを協議したいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願いいたします。

○産業の振興

(1) 農業の振興について

本年度の水稲作況指数は、長崎県全体では98%でしたが壱岐は100%と平年作の発表がなされました。早期米のコシヒカリは、高温による登熟障害等による品質低下により、1等13.1%、2等86.4%でしたが、本格作付けの高温耐性のあるつや姫は1等92.9%、2等6.1%と好成績で、収量・品質とも今後に期待のもてる結果がでております。普通期米については、台風後の倒伏及び病害虫等によりヒノヒカリが、1等7.1%、2等76.0%と品質低下の被害を受けた一方で、にこまるは、1等90.4%、2等9.6%でありました。

葉たばこについては、準備期に雨が多く全体的に中柄であり、6

月から曇天続きでの成熟不足、病害虫の発生で、目標収量の250kgに対し収量が198kgでしたが、10月10日から16日にかけて行われた収納・販売では、1kg当たり代金2,133円、10a当たり代金421,335円と高い品質でありました。

施設園芸のアスパラガスについては、収穫面積13.7haで7年連続県内トップの反収を誇り、25年度販売金額が3億円を達成しております。これもひとえに生産農家皆様のご精進とJA壱岐市の積極的な取り組みの賜とっております。

畜産については、全国的な繁殖農家の減少に伴い、子牛の販売価格は昨年末から高値で推移しており、1日、2日の12月市では、平均562,735円で前回比106.9%の成績で、雌については、平成18年10月以来の50万円台、去勢については、平成18年8月以来の60万円台となっております。しかしながら、高齢化・後継者不足等による繁殖牛の飼養頭数が減少しておりますので、産地維持のため、抜本的な繁殖基盤の強化を図らねばと考えております。

また、国の農業政策が、平成26年度より大きく変わろうとしております。政府は、水田農業や経営所得安定対策等の見直しを行い、日本型直接支払制度の創設、水田活用の直接支払等の充実を図り農業者の工夫と努力を反映する仕組みとして競争力強化を図り、担い手の規模拡大を後押しするとしておりますが、今後、JA壱岐市をはじめ関係機関、団体等と連携を密にしながら、今後の動向等を注視してまいります。

農地・農業用施設等災害については、8月、9月の集中豪雨による被災申請箇所43地区の現地査定が実施され、その結果、平均査定率が95.7%、査定額が4,639万7千円となりました。

今後、早急に事務手続きを進め、復旧工事に着手してまいります。また、11月10日の豪雨により農地・農業用施設災害26箇所、林地災害1箇所が発生しております。今回、所要の予算を計上しておりますので、ご審議賜りますようお願いいたします。

(2) 水産業の振興について

本年4月から10月までの本市の漁獲量及び漁獲高を昨年同期と比較すると、漁獲量は1,600トンで3.13%の増であるものの、漁獲高は16億6千万円で1.08%の減となっており、魚価の低迷が深刻な状況にあります。

燃油価格高騰対策として本年7月から重油、軽油1リットル当たり10円の補助を行っておりますが、7月から10月までの燃油の取扱量を昨年同期と比較しますと台風の影響もあり、やや減少しております。今後、下半期の漁獲量・漁獲高の増加に期待するとともに、漁家所得の増収を期待しております。

また、長崎県市長会において、本市が提案した国の施策である「セーフティネットの特別対策発動ラインの現行制度までの引き下げ」や「発動基準の平均価格の算出根拠を見直し、原油高騰が始まった平成16年3月以前の価格を基準とする程度まで引き下げること」が決議され、その後、10月に開催された九州市長会においても了

承され、国に提出されております。

また、10月22日に市内の一本釣り漁業者347名が集い、クロマグロ漁を守るため「資源管理型漁業」を深く研究し持続可能な漁業の実践を目的とした「壱岐市マグロ資源を考える会」が設立されました。活動としては、クロマグロの産卵期における漁獲制限を求めること、危機的状況下にあるクロマグロ資源の情報の共有を幅広く進め、国民運動となるよう行動を行うものであり、市といたしましても、本会の趣旨を十分理解するとともに、各関係機関と連携を図りながら、資源管理型漁業を積極的に推進してまいります。

今後も、非常に厳しい状況にある水産業の振興に、各漁協をはじめ関係機関、団体と連携を図りながら、全力で取り組んでまいります。

○ 教育

(1) 長崎がんばらんば国体2014について

8月に開催した、ソフトボール競技と自転車競技ロード・レースのリハーサル大会で得た課題を整理し、来年の本大会が、より良い大会となるよう進めております。

本年開催された東京国体「スポーツ祭東京2013」に、壱岐市出身の2名のアスリートが長崎県代表として出場されました。ソフトボール成年女子に、ピッチャーとして とよなが ゆう 豊永 優 選手（IPU環太平洋大学3年生）が、準々決勝で、準優勝した愛媛県チームに

延長戦の末、惜しくも敗れましたが、長崎県チームのベスト 8 入りに貢献されました。また、バレーボール成年男子には、^{やまかわ けんすけ}山川 賢祐 選手（筑波大学 3 年生）が出場、1 回戦で、準優勝した広島県に接戦の末、惜しくも敗れましたが、両選手とも県代表として大いに活躍されました。

地元開催となる来年の「長崎がんばらんば国体」でも、両選手をはじめ壱岐市出身選手の活躍を期待するところであります。特に、本市で開催される「ソフトボール成年女子」においては、豊永選手が、エースピッチャーとして期待されております

今後とも、「長崎がんばらんば国体」が、すばらしい大会となりますよう、市民皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

○ 病院事業

（１）壱岐市民病院について

壱岐市民病院の経営状況については、本年 4 月から 9 月までの上半期の経常収支が約 3, 0 0 0 万円の黒字となり、経営状況は確実に改善しております。特に入院患者は、診療体制の充実による患者受入体制強化等により、病床利用率は 8 0 % 前後と安定して推移しております。

なお、C T 及びマンモグラフィーの両撮影装置の更新が完了し、最新機器による検査体制の充実も進んでおり、今後も経営の安定化並びに、市民皆様に信頼される病院づくりに努めてまいります。

また、来院者の増加に伴い、駐車場の拡張のため、市民病院正面玄関側に18台分の駐車スペースを増設する工事を12月から着手し、3月の完成を目指しております。

工事期間中、市民病院を利用される皆様には、ご迷惑をおかけすることとなりますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

また、第3次長崎県地域医療再生計画に基づく事業として、研修医の宿泊施設の整備が補助事業として採択され、今回、所要の経費を計上しておりますので、ご審議賜りますようお願いいたします。本事業は、研修室と宿舎を兼ねた施設を病院に併設し、研修医や卒業3年から5年の若手医師の確保を進め、若手医師育成の拠点としていくとともに、壱岐地域の医師不足解消の一翼を担うものと期待しております。

引き続き、長崎県病院企業団への早期加入に向けて、市民病院の機能強化の取り組み等について、全力で進めてまいります。

○防災、消防・救急

(1) 防災、消防・救急について

去る9月から10月にかけて、東京都伊豆大島を中心に発生した台風災害では、多数の方々がお亡くなりになるなど、甚大な被害が生じました。お亡くなりになられた方々並びにご遺族皆様に心から哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に衷心よりお見舞いを申し上げます。今回の災害は、同じ離島として大変憂慮する事態

と考えており、本市といたしましては、今後も、防災対策に万全を期してまいります。

この度、一般社団法人日本損害保険協会から本市消防団郷ノ浦地区第7分団2部長島に小型動力ホンプ付軽消防自動車の寄贈を賜り、11月7日に総務省消防庁審議官等をお迎えし、寄贈式、放水訓練を行いました。本設備の整備により、消防力の強化が図られるものであり、ここに改めて、日本損害保険協会をはじめ関係機関にお礼申し上げます。今後も、壱岐市の「安全安心な住みよいまちづくり」の実現のため、あらゆる機会を捉え消防力の整備、強化に努めてまいります。

また、11月5日には、長崎県防災航空隊と壱岐市消防本部との合同救助訓練を実施いたしました。新型ヘリコプターによる実効性のある訓練となりました。今後も、各関係機関と連携を図りながら有事に備え、万全の体制をとってまいります。

本年1月から11月末現在の災害発生状況は、火災発生件数25件、救急出動件数1,472件となっており、昨年同期と比較しますと、火災が5件の増、救急が60件の増となっております。これから年末年始にかけて、火災の発生しやすい時期であります。市民皆様には、火の取り扱いなどご注意くださいようお願いいたします。

(2) 原子力防災について

去る10月19日、原子力安全連絡会が本市で初めて開催されま

した。本市、県、九州電力、各関係機関の代表21名が出席し、玄海原子力発電所で放射能漏れ事故が起きた際の取り組み等について意見交換を行い、さらに避難経路、避難方法、原子力発電所の安全対策等について協議を行いました。

また、11月30日には、今回で2回目となる、玄海原子力発電所での放射能漏れ事故を想定した平成25年度長崎県原子力防災訓練が県内4市をはじめ、長崎県、佐賀県、福岡県の3県合同で開催されました。特に今回は、県外への広域避難訓練を行い、本市からは、航空自衛隊大型ヘリ、海上自衛隊ミサイル艇により18名の市民皆様に福岡県大野城市体育館へ避難訓練を行っていただきました。この他、情報収集伝達訓練、災害対策本部設置・運営訓練、緊急時モニタリング訓練、緊急被ばく医療訓練、広報訓練、要援護者の搬送訓練等を行い、総勢約300人のご参加をいただきました。今回の訓練での成果や課題を検証し、今後も実践的な訓練を積み重ねながら、原子力防災対策に関係機関とも連携して取り組んでまいります。

次に議案関係についてご説明いたします。

(1) 補正予算について

本議会に提出しております補正予算の概要は、

一般会計補正総額	△2億1,005万9千円
各特別会計の補正総額	2,465万9千円

となり、本定例会に提出いたしました一般会計、各特別会計の補正額の合計は、△1億8,540万円

となります。なお、現計予算と合算した本年度の一般会計予算は

229億5,530万9千円

で、特別会計については

104億9,982万7千円

となります。

また併せて、病院事業会計についても、所要の補正予算を提案しております。

(2) その他の議案について

本日提出いたしました案件の概要は、条例の制定及び一部改正に係る案件13件、公の施設の指定管理者の指定案件5件、予算案件6件、財産の無償譲渡1件、新市建設計画の一部変更及び各辺地に係る総合整備計画の策定各1件、契約案件1件、合計28件であります。

なお、今回、消費税率及び地方消費税率の改正に伴う関係条例の一部改正を提出しておりますが、今回提出した以外の条例についても、一部改正を要するものがありますので、これらについては、国等との協議を踏まえ、本会議以降に、提出することとしておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

今回提出した案件の詳細については、担当部長、課長等から説明をさせていただきますのでご了承願います。

何とぞ十分にご審議をいただき、適正なるご判断を賜りますよう

お願い申し上げます。

おわりに

以上をもちまして、前定例会以降の市政の重要事項等につきまして申し述べましたが、今後も、様々な行政課題や緊急に対応しなければならない問題等に対し、果敢に取り組んでまいり所存でありますので、議員皆様並びに市民皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年12月3日

壱岐市長 白川博一